

# プリエールねっと通信



2023.2 月号

## 目次

- おしらせ……………1  
プリエールねっと合同自主企画  
講演会
- 市民企画講座報告……………2・3  
「あなたの暮らしが見えますか？  
パート 24」
- 「いのちのはじまり～からだ探検隊」  
インフォメーション……………4  
・しまね女性ファンド助成事業  
・3.8 国際女性デーのつどい  
・包括的性教育の取り組み

《通信発行者》  
プリエールねっと広報担当  
芦原 康江  
角 智子

## □おしらせ

長い間のコロナ禍の中、プリエールねっとのイベント  
ができないでいましたが、今回、自主企画講座を下  
記のとおり開催することにしました。皆さんの情報交  
換、交流の場として活用いただきますよう、ご参加を  
お待ちしております。

## プリエールねっと合同自主企画講演会

日時:2月25日(土) 14:00~16:00

場所:市民活動センター(スティックビル)

201・202 研修室

## 講演: ジェンダー平等について考える

～学校現場の取り組みと課題～



講師: 亀井 美砂子さん

(日本教職員組合 広島県協議会 顧問)

定員 40 人

要申込み

ジェンダー平等、ジェンダーフリーと言われてから久しいですが、家庭や地域、職場を見ると、大きく進んでいるとは言えない現状があります。

そこで、これから成長し、社会や地域の中で活躍する子どもたちの学習や、学校での取り組みなどはどうなっているのか？現場で携わってきた教員の立場からの取り組みや現状、課題などについて、講演を受け、共に考えたいと思います。

[申し込み先] TEL 090-4576-7404 (I女性会議しまね 河瀬)

【主催】I女性会議しまね・プリエールねっと 【共催】松江市(男女共同参画センター)



## あなたの暮らしが見えますか？パート24



「あなたの暮らしが見えますか」と謳った松江友の会の企画は、もう24回目になります。長く続けることも大変なことで、その努力に敬意を表したいと思います。

11月20日に開催された企画は「値上げラッシュ・進むキャッシュレス 家計簿つけて安心へ～スマホで家計簿始めましょう～」と、家計簿のつけ方についてでした。

新たに入会され、kakei+（クラウド家計簿）を始められた40代のフルタイムで働く会員さんが説明される予定でしたが、参加できず、他の会員さんによる代読でした。その説明を受けて、参加された会員の皆さんもスマホでkakei+を登録し、つけ方の練習をされました。

kakei+は、アプリで家計を管理するものですが、同会の創始者である羽仁もと子さんが創業された「婦人の友社」によって、1904年に初めて創案した「羽仁もと子案 家計簿」を基にしたもので、ありのままに記入していくと、自動集計で何にいくら使ったか、今月いくら残っているかがひと目でわかり、お金の使いすぎを防ぐことができるのだそうです。そして、月や年の終わりに、

グラフ化された収支を確認すると、お金の使い方のクセが「見え」と謳われています。

同家計簿では、1年分の収入を12等分して、各月の共通予算にして、毎月その予算から支出を引き、残額を繰り越していきます。そうすることで、1年を通して安心した生活ができるということです。

主催された友の会さんは、「値上げラッシュで家計への負担が大きい今こそ、予定と予算を立てること、家計簿記帳の大切さを伝えたかった。」と企画の趣旨を話されました。そして、「羽仁もと子さんが創案したこのクラウド家計簿を、スマホやパソコンでつけることができるので、試してもらいたかった」とも話されました。

参加された皆さんも「楽しかった」「時間があっという間だった」と楽しくチャレンジされたようでした。



## いのちのはじまり～からだ探検隊！

日本の性教育については、熱心な養護教諭などによって取り組まれてきましたが、激しいバッシングもあり、「学習指導要領では『性交を扱わない』とされてきました。正しく学ぶことができない実態が続き、なかなか性暴力を防ぐことができていません。国内外から、それでは正しい性の知識を身につけられない」「いまの性教育では性暴力を防ぐには不十分だ」と言われているのが実態です。

一方で、ユネスコは5歳から幅広く性について学ぶ「包括的性教育」を行う方針を示しているのをご存知でしょうか。包括的性教育とは、同意・安全・多様性・ジェンダー・セクシュアリティなど、人権尊重を基盤とした性教育のことで、月経や射精といった生理的なことを学ぶだけではなく、「性」を生物学や政治・経済などの社会、環境など多面的にとらえて学ぶことに重点をおいています。性についてきちんと学ぶことは、子どもたちをはじめとしたすべての人の権利です。国内でも多くの人たちによって実践が続けられ、子どもも大人も「知りたい」という欲求が強いということも知られてきました。

そんな中で、新日本婦人の会松江支部 親子リズムサークルさんも、性についての情報があふれる一方、正しい知識を学ぶ機会が少なく、性被害に合う子どもが増えていることを憂慮し、「知識がないために加害者になってしまうこともあります。だれもが幸せに生きるために、幼少期からの包括的な性教育が大切だといわれています」と、性教育講座の意義を話されました。

講師に招かれた元養護教諭の藤田優子さんの性教育の講座は、大変好評で、幼児期から思春期後期まで成長発達に応じたお話をされます。



8月4日は、思春期前期までの子どもたち向けに、『いのちのはじまり～からだ探検隊！』というタイトルで、2才から11才まで11組の親子の参加で開催されました。宝探しやクイズなどをして遊びながら、紙芝居などで人間のからだの仕組みを学び、「いのちはどうやってはじまるの？」「お母さんから生まれたのに、どうしてお父さんにも似てるの？」などの問いにも、わかりやすくこたえて下さいました。



参加した人の感想には「学校では習わなかったことや、疑問に思っていたこともわかってよかった。(小2)」とか「子どもと性の話がしやすくなった。(小学生の母親)」「からだの洗い方の説明がうまくできないので、先生から伝えてもらえてよかった。(幼児の母親)」など親子でそれぞれに学びのある時間になったようです。

親子リズムサークルさんの取り組みをお聞きして、自分の大切な体を守ることはもちろん、他者のことも守るためにも、学べる機会を持つことは、大人になっても被害も加害も生まない大切な取り組みだと、改めて感じました。



# インフォメーション

## しまね女性ファンド助成事業

公益信託しまね女性ファンドでは、女性を主たる構成員とするグループが実施する地域づくりや人づくりの活動事業を支援しています。2021年には、新日本婦人の会がコロナ後の社会を考える学習会をファンドから助成を受けて実施しています。

令和5年度前期の活動についての募集はすでに締め切られましたが、後期(10月～3月)実施予定の活動は5月15日から7月15日までの予定で募集されます。詳しい内容についてはプリエールに備えてあるパンフレットをご覧ください。

## 包括的性教育の取り組み

いま、日本の性教育について、課題を指摘する声があがっており、今回の市民企画講座の報告の中にも出てくる「包括的性教育」が学校教育にも求められています。

インターネットが普及した昨今、特に、子どもや若者は、歪んだ性の情報、あからさまな性的情報に、過剰にさらされています。子どもや若者が、人生において、責任ある選択をするための知識やスキルを学ぶことが重要です。そのためには、生殖器官や妊娠についての知識の教育だけでなく、性交、避妊、ジェンダー、人権、多様性、人間関係、性暴力の防止なども含めた「包括的性教育」が必要です。多くの国では、国連教育科学文化機関(UNESCO)の「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」に沿って、性教育が行われていますが、日本の学校教育での取り組みは十分とはいえません。

そのため、性に関わる問題に悩む若い人たちが多く、その人たちの悩みや不安に応える相談窓口の整備も必要です。

プリエール市民企画講座

## 3.8 国際女性デーのつどい

(参加無料)

3月8日は「国際女性デー」です。この日を定めたことに賛同し、学習する講座です。短編映画「アンコン～夫婦あるある物語～」を視聴し、ジェンダー平等について話し合います。

**日時:3月4日(土)14:00～16:00**

**場所:市民活動センター**

**201・202 研修室**

**定員:50名**

〈申込・問合せ先〉

島根県母親大会連絡会事務局 江角

電話:090-7503-5561

## 3月8日は「国際女性デー」

1904年、ニューヨークで婦人参政権を求めたデモが起源となり、国連によって、国際婦人年にあたる1975年に3月8日を「国際女性デー(International Women's Day)」として制定されました。「国際女性デー」は、すばらしい役割を担ってきた女性たちによってもたらされた勇気と決断を称える日です。国際的な女性運動の広がりや、国連が4回にわたり開催した世界女性会議に支えられ、この国際デーを、女性の権利と政治的、経済的分野への参加に対する支援を共に盛り立てていくきっかけとして役立っています。

イタリアの「ミモザの日」は有名で、「FESTA DELLA DONNA(フェスタ・デラ・ドンナ=女性の日)」とされ、女性に感謝を込めて、母親や妻、友人、会社の同僚などに愛や幸福の象徴でもあるミモザが贈られています。ちなみに、この情報紙の巻頭にもミモザを添えています。